

敬老パスには
いくらかかっているの？

年間事業費

35億円

今年度の敬老パスにかかる事業費は三十五億二千二百万円。国からの補助がない市独自の事業であり、市民の皆さんの税金などで賄われています。

今後毎年

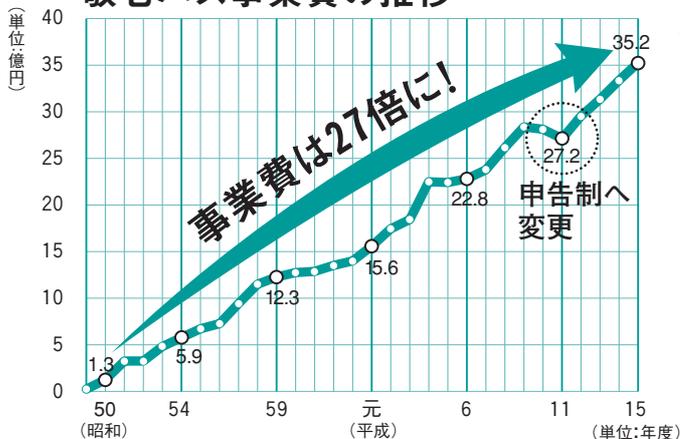
2億円ずつ増加

今年度の事業費は昨年度に比べ一億八千八百万円増加しています。制度を今のまま維持するとすれば、今後毎年約二億円の増加が見込まれています。

利用者一人当たりでは
2万2千円

年間事業費を今年度の利用者十六万六千五百五十九人で割ると一人当たりの金額は二万二千八百円になります。実際の使用額は地下鉄、バスなどの事業者の調査ではその倍以上になっています。

敬老パス事業費の推移



各都市の状況

■政令指定都市 (代表的な方式の都市を紹介。なお、さいたま市は助成制度なし)

仙台市	有料の乗り放題バスと無料の乗車カード(10,000円分)との選択制。乗り放題バスは収入に応じて1,000~5,000円を負担。財政を圧迫することから、平成14年10月にバスの無料交付から現方式に改めた。
千葉市	敬老祝い金(現金6,000円)と乗車カード(12,000円分)との選択制。
横浜市	有料の乗り放題バス。所得が125万円未満(市民税非課税世帯)では2,500円、125~700万円未満では5,000円、700万以上では15,000円を負担。生活保護受給者は無料。財政を圧迫することから、今年10月、無料交付から現方式に改めた。
名古屋市	65歳以上の市民に乗り放題バスを無料で交付。ただし、市営交通(地下鉄、バス)のみ利用可能。
京都市	乗り放題バスを無料で交付。ただし、利用する交通機関を市営交通と民間バス8社のうちから1社を選択。民間バスの場合1路線に限る。

■隣接する都市

石狩市	バスカード(5,000円分)を無料で交付。ただし、3カ月以上居住した方のみ。
小樽市	バスの乗り放題バスを無料で交付。ただし、バスの運行していない地域についてはJR特定区間の回数券を交付。
江別市、北広島市、恵庭市	は、助成制度なし。

※対象はいずれも70歳以上の市民(名古屋市を除く)

平均寿命の延びは
5歳以上に
対象者は
5倍に

敬老パスの交付対象となる七十歳以上の市民は、制度が始まった昭和五十年に比べて五倍になっています。この間、平均寿命は男女ともに五歳以上延びています。

札幌市の平均寿命と高齢者数の推移 (札幌市統計書)

